3.11 その時、ろう者は

聞こえない津波警報 人の助け なかったら

耳が聞こえない「ろう者」に焦点を当てたドキュメンタリー映画を撮影している名古屋市緑区の映像作家今村彩子さん(33)が、東日本大震災で被災した聴覚障害者を描いた「音のない3・11」を制作した。津波警報が聞こえず、近所の人の助けで一命を取り留めた老夫婦らに密着し、「命の情報に格差があっていいのか」と問い掛けている。（鈴木龍司）

生まれつき耳が聞こえない今村さんは、ろう者の世界を映像で伝えたいと思い、愛知教育大在学中の十九歳の時に渡米。カリフォルニア州立大ノースリッジ校で一年間、映画制作を学び、これまで特別支援学校やサーフショップで働くろう者などを撮影してきた。

今村さんは震災の十一日後、宮城県岩沼市に入り、耳が聞こえない菊地藤吉さん(八〇)と妻の信子さん(七四)を取材した。

二人は揺れが収まった直後、津波が来ることを知らずに自宅に残っていた。地元の人が訪ねて来てくれ、津波警報が鳴っていることを知った。高台に逃げた後、自宅は跡形もなく流された。

今村さんも福島県いわき市を取材中に震度6強の余震に遭い、「あの時も多くのろう者は、揺れが収まったら大丈夫だと思っていたのだろうか」とナレーションを入れた。

二十三分間の映像は昨年九月に完成。ニュース番組の手話通訳の少なさや救援物資などの情報収集の難しさを指摘。筆談を遠慮し、近所付き合いが希薄な仮設住宅で孤立しがちな現状も伝えている。

内閣府によると、東日本大震災に被災した東北沿岸三県の障害者の死亡率は2・06%で全体(1・03%)の二倍に上ったとの統計も。今村さんは東京都や山梨県などで上映会を開き「日ごろからろう者とそれ以外の人が顔を突き合わせ、人間関係をつくることがまずは大事」と訴えている。

映像を収めたDVDは日本語のほか英語、韓国語、ポルトガル語の字幕付きで三千円（送料込み）。問い合わせは、今村さんのメールアドレスstudio_aya_ai@yahoo.co.jp=へ。

耳の聞こえない人のために作成した東日本大震災のDVDについて、手話で説明する映像作家の今村彩子さん＝名古屋市熱田区の名古屋学院大で

名古屋の映像作家 宮城の高齢夫婦 映画に